

ずいそう



書を通じて思うこと

滝上 幸宏

私は小さい頃から書に親しんできました。

小さい頃は習字として、書道の基礎、礼儀作法等を学びました。小学校後半から中学にかけてはもっぱら作品作りで、いろいろな展覧会に出展して、たくさんの賞をいただきました。

高校時代は書道をやめていたのですが、大学に入ってから書道部に入り、本格的な書道として楷書、行書、草書、隸書、かな、近代詩文、ペン字等幅広く勉強しました。小さい頃はもっぱら字の基本をしっかりと学ぶこと、そして、礼儀作法の面では正座をして、墨は墨汁を使わずに硯で擦って書くというものでした。展覧会前の作品作りの時などは足がしびれて、手も痛かったことをよく覚えています。このおかげで、現在の自分の物事への集中力の基本ができたように思えます。

大学時代は一転して、幅広く書を学ぶことと連盟役員としての活動により、たくさんの友達や社会人の方と知り合いになることができ、ここで初めて人間としての広がりを感じたなぁと感じました。また、紙、硯、墨、筆の産地に出かけて行って、いろいろな職人さん達に出会うこともできました。一つ一つが手作りで、大切に使わなければとつくづく思いながら帰ってきたことを覚えています。

ここまでの話ですとあまり苦勞もなかったかなぁと思われるかも知れませんが、そうはうまくいきません。ここから少し苦勞話をしたいと思います。

大学の書道部はそれなりに厳しいものがあり、展覧会の前には合宿があります。なかなかいい作品ができず悩むことも度々でした。下宿に帰ってから徹夜で書いたことも何度もありました。当然期限がありますので何としてもそれに間に合わさなければなりません。何度か退部しようかと思ったこともありました、みんなに励まされ何とか踏みとどまることができました。

一方、お金の面でも貧乏でした。仕送りは普通にしてもらっていたのですが（両親には感謝しています）、書道にはお金がそれなりにかかります。紙にしても条幅100枚で普通でも8,000

円〜10,000円程します。筆にしても墨にしてもピンからキリまであります。仕送りで足りない部分は家庭教師をしたり、デパートでのし書きをしたり、急ぎでお金が必要になった時などは空港の夜間舗装工事などのアルバイトをしたこともありました。当時の私にとっては結構たいへんなものでした。おかげで下宿でごろごろしている暇もなく、忙しい毎日でした。今にして思うと、どれもこれもがいい経験になっていると思います。

そんなこんなで忙しい毎日でしたが、親への感謝の気持ちもあって大学の授業には真面目に出席して、単位も順調に取得でき、卒業も予定どおりにできました。でも書道の方は最後までたいへんでした。最後の卒業展では、作品作りに苦労しました。それなりに私の集大成ですので、どんな作品にしようかとあれこれ悩みました。そして、結論として、いくつかの作品とともに金粉、銀粉の写経をしようと考えました。前年に母が他界したこともあり、この母への感謝の気持ちを込めて写経をしようと考えたのです。金粉、銀粉（本物）を買ってきて（当時の私にとってはとても高かった記憶がありますが）、ニカワで溶いた後マスクをして当然正座で各2時間、合計4時間あつという間でしたが本当に無心で書くことができました。私にとってはとても思い出深い2作品となりました。卒業展ではこの作品の前でたくさんの方に足を止めていただき、いろいろ質問していただきました。知らず知らずのうちに自分が一生懸命説明していたことを今でも鮮明に覚えています。

今、この作品の一つは親戚に、もう一つは私の実家の壁に掛けられています。実家に帰るたびにこの作品を見ますが、つい最近のことのように思い出されます。私にとっては大切な心のよりどころであり、大切な宝物の一つなのです。

今の世の中は、コンピュータ社会、学習塾社会で子供たちにとってこれを避けて通ることはできませんが、できれば少し時間の流れを緩やかにして、気持ちを静めて、書道や絵などを学んでもらえればと思います。大人にも同じことが言えるのですが。そして、人間が人間としての本来の感性を少しでも味わえれば心も豊かになっていくような気がします。

そんな私も最近筆を持つ機会が非常に少なくなり、正月に辛うじて年賀はがきを筆で書く程度です。来年の年賀状はパソコンでしようかと心の片隅で考えている自分が情けなくなります。でも今回この原稿を書いた手前もありますので、当分は自筆で年賀状を書こうと思っています。そして、将来できれば一度個展を開きたいと思っています。また、そんなに遠くはない老後は、子供たちにボランティアで習字を教えることができればなあとと思っています。